岡山県
2013年　秋号　76

# せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会　TEL：086-230-1315　HP：http://okayama.kenren-coop.jp/

## 第29回　中四国生協・行政合同会議が岡山県で開催されました。

9月5日（木）ホテルグランヴィア岡山にて、第29回中四国生協・行政合同会議が開催されました。今回のテーマとして「地域づくりへの参加と協同」を掲げ、取り組みの共有化や先進的な事例について、学ぶことを目的とし、67名（うち行政15名）が参加しました。

**木幡浩岡山県副知事**より開催県として、昨年の国際協同組合年、地域福祉、食の安全、環境問題、消費者問題等に対する取り組みへの評価、生協への期待が大きいこと。これまで以上に行政も含めた幅広い連携を図るとともに、川上での取り組みが必要となっている。消費者ネットおかやまの一員として消費者被害撲滅の取り組み、おかやまコープのアマモ再生の取り組みなどにふれ、複雑化する社会の中、生協と行政との連携を進めていくことが大切であることの挨拶が行われました。

木幡副知事

**厚生労働省中国四国厚生局健康福祉部高原伸幸課長**より今回のテーマが時宜にあっていること、東日本大震災での復興に対して、生協の復興支援への取り組みに対する評価や避難施設等での員外利用への対応を可能としたこと、安心して暮らせる社会にむけて買い物弱者への対応や組合員が主体的に参加できる幅広い取り組みへの期待と、協同して取り組むことの挨拶が行なわれました。

健康福祉　高原課長

各県行政からは、消費者行政の取り組みや生協に期待することなどについて報告が行なわれました。

**特別報告として、日本生協連執行役員渉外広報青竹豊本部長**からは、2020年ビジョンで地域社会づくりへの参加について大きく位置づけをしたこと、協同の組織を地域に広げていき、それぞれの地域で過半数の方に生協に係ってもらう。アクションプランの中で、生協の事業・活動のインフラを活用した地域社会づくりへの参加や安心して暮らせる地域のネットワークづくり、主体的力量をつけていくことを重点としている。特に地域社会づくりについて行政との連携が進んでいること、福祉や多様な事例が生まれており、まちづくりの事例、お食事会、配食活動の増加、見守り協定の締結、緊急時の物資支援協定など全国の取り組みと方向性について、報告されました。

**岡山県くらし安全安心課吉田郁夫参事**より「消費者被害撲滅の取り組みと見守り」をテーマとして、消費者団体と連携した消費者被害撲滅の取り組み、消費者月間で消費者被害撲滅キャンペーンを行ったこと、消費生活懇談会への生協のかかわり、適格消費者団体設立支援補助、高齢者被害に対して、見守りの視点から消費生活サポーター講座の取り組みを進めていることなどの報告が行われ、県で作成したDVDの視聴を行いました。

**活動報告では、「高知県の地域見守協定への参加と県内生協による見守り活動」**

高知県生協連　林須賀事務局長から、７者で地域の見守り協定を締結、配送中の異変や危険な状態に気付いたときに連絡を行う。シンボルマークとトラック出発式、県内の見守り活動の事例や医療生協のひとりぼっちの高齢者をなくす取り組み、大学生協の住宅事業 24 時間サポート、高齢者福祉生協の見守り情報の配布などの取り組みについて、報告されました。

**「広島県における地域ささえあい活動の展開」**

広島県生協連　高田公喜専務理事からは、３つの区との地域福祉包括協定の締結、広島県・広島市をはじめとする災害物資協定の締結、県との地域ささえあいモデル事業の展開では、買い物支援、居場所づくり、人材育成、公共の場づくりなどの取り組み事例や平和の取り組みについて、報告されました。

**「瀬戸内市との包括連携協定の締結と取り組み」**

おかやまコープ　森本温美理事からは、瀬戸内市での取り組みとして、４者によるアマモ場造成活動に係る協定の締結や組合員の体験交流、瀬戸内市との包括連携協定として、地産地消、災害時連携、環境保全、地域福祉など幅広い分野で緊密に連携協力を進めていくこと、具体的に農業参入、障がい者支援、高齢者見守り、災害時対応、買い物支援、助け合いなどについて報告されました。

鳥取県生協連　松軒浩史会長より次回開催県として決意表明が行われ、日本生協連松本等理事より閉会挨拶を行い、終了しました。

全体として地域づくりの先進的な事例や行政との連携も含めて学ぶことができたこと、行政と年１回取り組みや情報の共有ができたことは大きな意味がありました。

**試食交流会**では、岡山県生協連　和泉かよ子理事が司会を行い、国指定重要無形民俗文化財「備中神楽」の勇壮な舞が行われた後、岡山県農林水産部農政企画課吉本室長から、料理に使用されている県産品の紹介をされ、岡山県県民生活部くらし安全安心課折居実課長が挨拶と乾杯の音頭を取り交流会を開催しました。県内産原材料を使用した料理を楽しみました。

## 岡山県へパブリックコメントを提出

これまでの「夢づくりプラン」を見直し、「晴れの国おかやま生き活きプラン」の素案が出され、それに対してのパブリックコメントの募集が行われました。岡山県生協連として６通のパブリックコメントを提出しました。主なものは、県民の基本目標について、「人権が尊重され、ともに支えあう社会の実現」については、大切な価値であり記載される必要があることや、以前記載されていた食の安全に係る項目が削除されていることから、食の安全、安心は重要な課題であること、製造や流通段階での安全確保や食品偽装問題などに対する信頼性確保が必要なこととして、意見を出しました。

## 2013年度 岡山県への要望書を提出

岡山県に県生協連として要望書を 10 月 16 日に提出しました。当日は、県民生活部くらし安全安心課折居課長、山下総括参事、奥村主任に対応頂き、要望書の趣旨について説明しました。

主な要望項目は、生協の育成・強化について、消費者行政について、食の安全･食育について、災害対策について、環境対策について、保険・医療・福祉・介護・少子化対策について、買い物弱者問題への対応について、産消提携・地産地消運動について、協同組合との連携について　以上の９テーマ 27 項目に渡って要望しました。



# 岡山県協同組合交流会2013 100名を超える参加者で開催

７月 24 日（水）昨年の国際協同組合年の取り組みを踏まえて、４つの連合会が主催して協同組合交流会 2013「新たな協同をめざして」を開催しました。講演と各連合会の事例報告を通じて、相互理解と新たな協同の取り組みについて考えていくことを目的としました。

オープニングとして JA まにわ職員による力強い Yosakoi ソーラン踊りが行なわれ、おかやまコープ理事の田中敦子さんが司会となり、JA 岡山中央会会長　青江伯夫さんより、協同組合デーや協同組合の役割にふれられ開会挨拶が行なわれました。続いて来賓として就実学園理事長　千葉喬三さん、岡山県農林水産部次長　妹尾正己さんからそれぞれ挨拶を頂きました。

**講演　「新たな地域コミュニティへの協同組合の関与」**　講師　三重大学名誉教授　石田正昭さん

協同組合の役割について、経済的目的と社会的目的をもっており、組合員のために活動を行うと同時に周りの人たちに対する関与、地域に根差し地域社会に責任をもつ協同組合としての目的がある。みんなの幸せづくりの取り組みを求められ、脱原発も高齢者福祉もみんなの願いであり、協同組合の事業と活動の展開で実現してほしい。また、組合員の参加・参画で協同組合が地域社会づくりを目指すことが必要であり、８項目についての提起が行われました。

協同組合間の協同と連携が必要であること、現実の協同組合運動としてどう展開していくのかの視点から、組合員の学習活動を強化していくことが大切であること、また、情報の共有なくして認識の共有はなく、認識の共有なくして理念の共有はないこと、組合員の参加について、共感から関与へ高めることが重要であり、「～のために」から「～とともに」をめざすことが大切であることなど学ぶことが出来ました。

**各連合会からの事例発表**

**美作東備森林組合**　中蔦和人さんから「百年の森林づくり」をテーマとして、西粟倉村は 95% が山林で、単独の村として生きること、約 50 名が I ターン者で、大阪からは 1.4 時間のアクセス。100 年の森づくり、村づくりのビジョンにもとづき、進めている。村と森林組合と民間（加工と販売）とで提携し直接販売を進めていること、西粟倉のファンづくりの取り組みや間伐、六次産業化の取り組みの報告が行なわれました。

**おかやまコープ**　宮本紀子さんから「協同の力で広がるアマモ場再生のとりくみ」をテーマとして、商品の利用を通じて力を発揮すること、もずく基金での珊瑚礁再生の取り組みや石けん、洗剤の利用から里海づくりへ、2012 年度から「アマモ場造成活動に係る協定」を岡山県、日生町漁協、里海づくり研究会議、おかやまコープの４者で結び、再生活動へ直接参加するなど支援活動を進めてきたことなどの報告が行なわれました。

**岡山県漁業協同組合連合会**　難波洋平さんから「植樹・海浜清掃・魚食普及への取組」をテーマとして、森と海をつなぐ植樹、魚場クリーンアップ作戦として海浜清掃、親子おさかな教室ではお刺身やシーフードカレーづくり、郷土料理伝承講座など魚食普及への取り組みについて、報告がおこなわれました。

**岡山県農業協同組合中央会**　植田紘充さんからは「協同を通じた地域とのつながりづくり」をテーマに、「次代へつなぐ協同」として３か年の取り組みを決議し、多様な組合員のニーズ、思いを実現するために活動を展開していること、生活文化、食農教育として、あぐり（キッズ）スクール、農業体験などを進めていること、食農教育活動を進めていることの報告が行なわれました。

**岡山県生協連**　会長近藤清志より、引き続き各連で連携した取り組みを進めていくことなど閉会挨拶を行い、終了しました。

# 第27回岡山県消費者大会が開催されました。

10月29日　第27回岡山県消費者大会を開催し、16団体205人が参加しました。

**岡山県消団連代表幹事近藤幸夫弁護士**から、消費者庁を支えるために消費者が発言し力になること、消費者行政が私たちのためになるようにしていくことなどの開会のあいさつが行われました。

近藤代表幹事の開会あいさつ

**消費者庁阿南長官**から「消費者行政のいま、そしてこれから」と題して講演をして頂きました。この間制定した法律について、食品表示法は消費者の権利の尊重や自立支援の視点を入れた法律であること、適格消費者団体での差止め請求の対象としたこと。消費者教育推進法は、各都道府県でも推進計画を策定する努力義務があること、消費者の自立を支援するために行われる消費生活に関する教育や啓発活動を進め、適切な行動に結びつける実践的能力の育成を進めていくことを目的としていること。消費者庁が現在行っている取り組みとして、消費者に知らせて注意を促すことや事業者に対する是正を求めることについて説明されました。

阿南消費者庁長官

また、今年度の重要課題として、消費者力向上支援や地域力の強化、消費者の信頼確保を掲げていること、消費者安全戦略として、物価モニターの導入や食品ロス対策、風評被害に対する取り組み、消費者被害防止、地域ネットワークの構築が不可欠であることなどお話して頂きました。消費者市民社会の構築にむけて、消費者庁のめざすべきことや役割とともに、行政と消費者団体とが連携して実現していくことの必要性など学ぶことができました。

最後に子どもを事故から守るプロジェクトのテーマソングにあわせて、「おしえてね　アブナイカモ」の歌と踊りを披露されました。

【団体報告】

**JA岡山県女性組織協議会**から「日本の食とくらし、命を守る取り組み」をテーマに、TPP交渉反対の取り組みとして、失業者の増加や食の安全安心、国民皆保険の崩壊、病院経営にも影響すること、ISD条項の危険な内容等にふれ、十分な国民的論議が行われていないまま、進められていることなど報告されました。

倉敷医療生協

**倉敷医療生協**からは、「サポーターからパートナーへ　～認知症の取り組みはまちづくりの取り組み～」として、ステップアップ講座の取り組みや認知症患者への対応、予防するために早期発見、ウォーキング、ボランティアに参加することが大切、脳いきいき教室の開催や脳いきいき5か条など報告されました。

**おかやまコープ**からは、「瀬戸内市との包括連携協定の締結と取り組み」として、瀬戸内市と地産地消、災害連携、環境保全、高齢者支援、地域福祉などの幅広い分野での包括連携協定を締結したこと、耕作放棄地を活用しての農業参入や障がい者の雇用、高齢者見守り、 災害時対応やボランティア活動支援、買い物支援などの取り組みについて報告されました。

おかやまコープ

県消団連幹事おかやまコープ理事の竹田芳子さんが大会宣言案を朗読し、拍手で確認しました。JA岡山県女性組織協議会瀬良会長より、消費者をまもるための取り組みをわかり易く事例もふくめて説明を頂いたこと、風評被害について心が痛む思い。第27回全体テーマ「消費者が主役になる社会めざして」いろんな団体で心を一つにして取り組むことなど閉会挨拶を行い、終了しました。

竹田消団連幹事

**参加者からは、**「私達も力をつけ、積極的によりよい社会をつくることに参画、行動したいと思います。子ガモの長官かわいかったです。」「阿南さんがいっしょうけんめい話をされるので、思いが伝わってきました」など長官の講演内容はもとより、その人柄と真摯な姿に多くの共感が寄せられ、団体報告について「それぞれの活動が簡潔にまとめられていましたが、とても中身が濃く、すばらしい取り組みだと思いました。」「3団体ともに地域社会の課題として、それぞれの団体がめざすところなど報告されよく分かりました。」などの声が出されるなど、様々な視点から取り組みを学ぶことが出来ました。



# 会員生協トピックス

## おかやまコープ　「ハッピーフードパーク2013」を開催！

9月28日(土)、おかやまコープの「ハッピーフードパーク2013」がコンベックス岡山で開催されました。ハッピーフードパークとしては、3回目の開催になりますが、これまでで最高の1万9千人の方にご来場いただき、大盛況となりました。125の生産者・メーカーを始め、昨年の国際協同組合年フェスティバルでの協同組合間のつながりを引継ぎ、農協、漁協、森林組合、医療生協などの参加や、岡山県保健福祉部、農林水産部、中国四国農政局など行政の参加、また、東日本大震災で被災し岡山に移住してこ　られた方を招いてのブースなど、合わせて193のブース出展やステージ企画、子どもひろばなど、たくさんの方との「つながり」を実感した一日となりました。

## 労済生協

2013年7月30日（火）、ホテルグランヴィア岡山において、「全労済岡山県本部第4回代表者会議」ならびに「岡山県労働者共済生活協同組合第56回通常総代会」を開催し、提案した全議案について、満場一致で承認いただきました。

また、防災体験プログラムを2013年8月1日（木）に総社市のスマイル保育園で、9月10日（火）に倉敷市の倉敷東幼稚園で開催しました。

## 岡山医療生協　岡山医療生協オリジナルの健康体操が完成

岡山医療生協オリジナルの健康づくり体操「スッキリはればれ体操」ができました。ＤＶＤで普及しています。ＤＶＤには岡山医療生協の組合員さんが登場し、プロなみの演技が好評です。名前の由来は晴れの国岡山をイメージし、曲は童謡の桃太郎を使っています。テンポのよいリズムで体操を楽しめます。ＤＶＤの売り上げが好評で追加作成を予定しています。（ＤＶＤは1,000円で販売中）

## 県学校生協　学校出前授業『南極クラス』も３年目を迎えました

2011 年 12 月に教職員の方々を対象にスタートさせていただきました「南極セミナー」も今年で３年目、９月には 15 回目の開催を迎え、これまでに出前８校 1,071 名、フリー塾 235 名、セミナー 126 名　計 1,432 名の皆さまにご参加いただきました。

現在は出前授業『南極クラス』として内容も充実、「本物が体験できる！」授業として先生や子どもたちから大変好評をいただいています。生徒 10 人の島の学校の開催では自然児の活発な質問攻めに、スタッフも子どもたちに元気をいっぱいもらって帰りました（笑）

何といっても子どもたちの関心の的は、約２万年前の南極の氷が解けるとき「シュワシュワッ」という音が聞こえる感動の体験タイム「わぁスゴーイ！南極に行ってみたい！」と歓声が上がります。おかげさまで岡山県学校生協の出前授業が岡山モデルとして全国に波及、 各地の教育団体 , 学校生協が主催者となり、協力：国立極地研究所、協賛：ミサワホームで開催するこの出前活動が「教育支援プログラム」として評価いただき、経済産業省が後援する 2013 年度 のキッズデザイン賞を受賞いたしました。これからの予定も１２月に吉備高原の希望学園や、来年の夏休みの支援企画としてご相談もいただいています。子どもたちが「本物を体験」することで、将来に明るい希望と夢をもって元気に成長できるきっかけになれるよう、引き続き支援活動をつづけてまいります。

## グリーンコープ

グリーンコープ生協おかやまの創立 10 周年を記念した「ありがとう！！ 10 周年 元気まつり ～もっと知ろうよグリーンコープ～」を９月８日（日）に岡山市北区問屋町のオレンジホールにて開催しました。天気にも恵まれ 2,000 名を超える来場者を迎え、大盛会に終わりました。

## 三井造船生協　～今年も地区会で生協を盛り上げましょう～（生協強化月間の取組み）

毎年、10、11 月を生協強化月間と位置づけ、より多くの方に生協を知っていただき、また組合員さんにとって、もっと便利な生協となるよう様々な取り組みを行なっています。その一環として、三井生協家庭会の皆さんにお手伝いいただき、地区会を開催してます。

今年の地区会は、共同購入のおすすめを重点に、より多くの組合員さんに共同購入のよさを知っていただくことに取り組みました。また、葬祭事業からは「万が一のとき、どうすれば？」とのテーマで、葬儀までの流れを分かりやすく解説したり、介護事業からは「介護保険ってどうすればいいの」とのテーマで､介護認定の手続きを説明しました。参加者の方からは､生協への意見、応援メッセージをいただくなど、有意義な活動となりました。

## 倉敷医療　認知症サポーターステップアップ講座

８月 29 日､第２回「認知症サポーターステップアップ講座」を開催、講演と交流を行いました（93 人参加）。

講演では、講師の岡田理之氏（水島協同病院医師）が、認知症によく見られる事例をあげていろいろな接し方を紹介。「こんなときどうする？看護師さんにきいてみよう」など、楽しく学びました。

サポーター交流では、認知症の方の気持ちを考えることでよい対応ができるなどの発言がありました。（門脇　良）

### 組合員活動交流集会

９月７日、はじめての組合員活動交流集会を開催。総代や支部運営委員、事業所職員など 173 人が参加し、全体会では 11 支部から“すすんだ活動”を報告。分散会でも、自分たちの活動を報告したり質問したりと、和気あいあいと交流しました。継続的な開催要望も数多く出されました。（泉　宏光）

## 岡大生協　＜クリーンキャンパスの取組み＞

岡山大学生協では、環境活動の一環として津島・鹿田両キャンパスの学内清掃を実施しました。（参加者合計 187 名）当日は短い時間でしたが、空き缶・ペットボトルなど小さなゴミから古タイヤなどの粗大ゴミまで回収し、学内清掃を通じて組合員と学内環境を美化していくことの大切さを考えました。

## 津山医療

第 21 回保健大学が９月 12 日から始まりました。７回の講義中５回出席できた方が卒業資格を得ることができます。今回は 13 名の受講者です。健康チェックでは、血圧、体脂肪の測定、尿検査を行います。卒業後は保健委員としての活動が期待されます。

食と健康の講義での調理実習は、塩分控えめの食事をデイサービスの管理栄養士の指導で作りました。枝豆ご飯、鮭のホイル焼き、南瓜のサラダ、すまし汁、ミルクゼリーの献立でした。とてもおいしく、好評でした。併せて、各人が持ってきた味噌汁の塩分チェックも行いました。

3.11を忘れない―みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします―10月4日

# まだまだ消えない「住まいの不安」

生活再建のために最も基本的で重要な「住まい」。しかし、被災地では住まいを巡って日々新たな問題が浮上しています。床のたわみなど早くも老朽化が進む仮設住宅、みなし仮設の契約打ち切りや用地返還に伴う仮設住宅の撤去による仮設間転居、新築を困難にする地価の高騰、遅れがちな宅地造成、難航する集団移転の合意形成など、被災した人たちはそれぞれに困難な状況と向き合っています。仮設住宅で宅地の供給開始を待つ岩佐恵美子さんは、「工事の建設資材や人手が不足していると聞くので、計画通り進むかどうか…」と工事の遅れを心配します。

災害公営住宅の建設も遅れ気味です。上原イチ子さんは「ここを出るのは最後の方になりそう。今は元気だからいいけれど…」と長引く仮設での生活に不安を覗かせます。

斎藤くに子さんは「まちづくりが始まったのは最近。息子や娘たち家族に新しいまちの完成を待つ余裕などないから通勤・通学に便利な町へ引っ越していきました。家を建てても、工事が遅れれば転出する若い世代はもっと増える」と言います。

国は仮設住宅の入居期間延長を決めましたが、それは狭く不便な生活が今後もしばらく続くということに他なりません。復興の遅れが住まいの問題をより複雑にし、被災した人たちをさらに辛い環境に追いやっているのです。※工事期間などは宮城県・山元町等の最近のデータに基づく。　情報提供／みやぎ生協

▲山元町の仮設住宅。ベンチは住民のコミュニケーションの場だ。

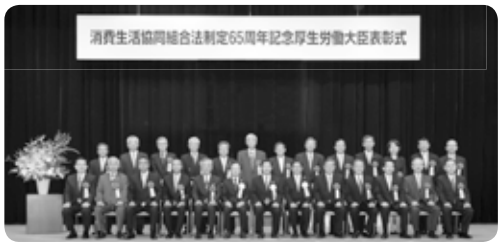
▲周辺に何もない場所に建設が進む災害公営住宅（仙台市田子西地区）。
しかし宮城県の計画戸数15,754戸に対し工事が完了したのはまだ117戸にすぎない（'13年8月31日現在）。

# NPO消費者ネットと岡山市消費生活センターとの懇談会開催

10月23日（水）岡山市市役所　8階会議室にて、岡山市消費生活センターとNPO法人消費者ネットおかやまとの懇談会を開催しました。

最初に岡山市消費生活センターから、相談件数は、半年で1989件と前年よりも500件以上も大幅に増加していること、主な相談内容は、健康食品の送りつけ、インターネット利用料のトラブル、未公開株などが上位となっており、高齢者が被害にあっていることなど相談内容の特徴や対応、センター全体での取り組みとして消費者啓発事業、相談事業、事業者指導事業について、説明が行われ、続いて消費者ネットから、取り組みの報告が行われました。

今後も、協力して取り組めることを具体的に検討していくことを確認して終了しました。

# 津山医療生協、安場参与が厚生労働大臣表彰を受けられました。

生協法施行65周年にあたる今年度、長年にわたり健全な事業運営を行い、他の模範と認められる生協及び役員に対して厚生労働大臣表彰を行うもので、団体として津山医療生協、個人で安場靖参与が表彰されました。